



### ○ ユニバーサルフォントについて

私たちは情報の多くを視覚から得ています。その視覚情報のほとんどは、文字によってもたらされていることは、もはや疑いのないことでしょう。

ひとたびどこかに行こうと思えば、案内板や交通標識、手元の切符にいたるまで、私たちはそこに記録された文字情報を頼りに行動をしています。文字は私たちの日常に、ごく当たり前のように浸透しているのです。

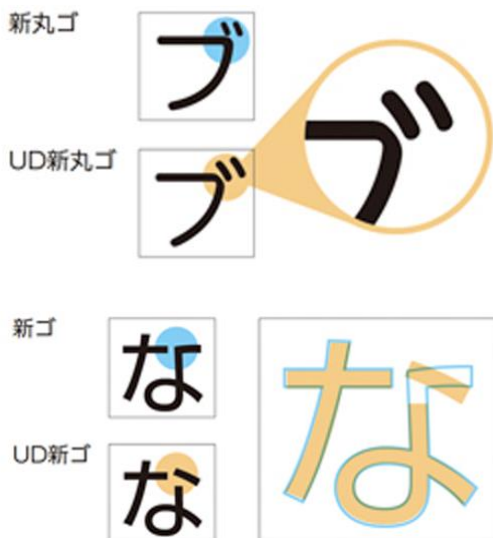
ではその文字が読みにくかったとしたら、わかりにくかったとしたらどうでしょうか。「300円」なのか、「800円」なのかわからない。濁点と半濁点の判別ができない。細い文字がかすれて読めない……文字の不明瞭さは、時として致命的なコミュニケーションの欠如を引き起こします。

このような事態を未然に防ぐためには、文字そのものがわかりやすく、読みやすく、読み間違えにくいことが求められます。つまり、誰がどんな状況であっても、正しく機能する「ユニバーサルデザイン」という発想が、文字のデザインにおいても求められているのです。

**文字のかたちがわかりやすい**  
**文章が読みやすい**  
**読み間違えにくい**

### ○ ユニバーサルフォントは普通のフォントと何が違うのか？

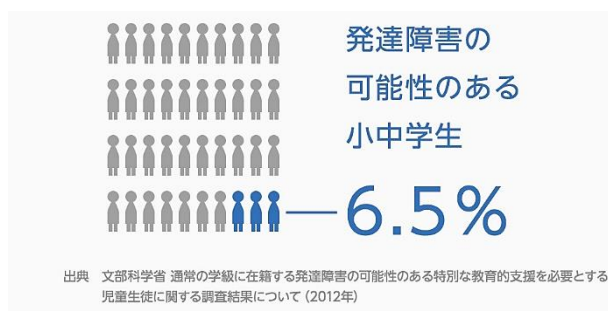
わかりやすさを重視するあまりに文字の美しさが損なわれることのないよう、視認性とデザイン性、双方のバランス調整がデザイナーの手によって施されています。一例をあげます。



※点の位置や大きさを変え、見やすくしています。

## ○ インクルーシブ教育の実現のために「フォント」を変える

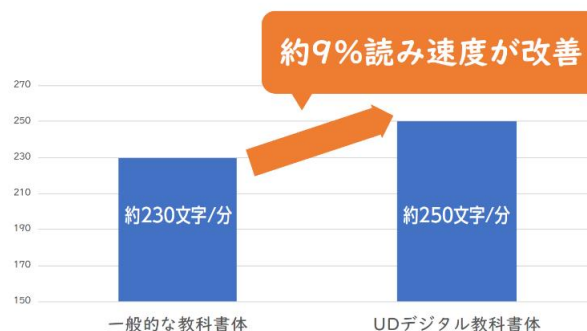
教育現場では多様な子どもたちがともに学んでいます。文科省が実施した調査結果では、通常学級の中で「発達障害の可能性がある」とされた児童生徒の割合は6.5%でした。特別支援学校などに通っている発達障害やロービジョン（弱視）の児童生徒を含めるとさらに割合は大きくなります。



ユニバーサルフォントを使用することは、教育効果改善にもつながるという研究結果もあります。

2019年に大阪医科大学 LD センター奥村氏が読み書きに困難さがある小学生2～6年生33人を対象として実施した検証では、一般的な教科書体よりも、UD教科書体のほうが読み速度が9%改善されることがわかりました。

### 客観的読みやすさの検証 読み速度について



一般的な教科書体	UDデジタル教科書体	一般的なゴシック体
追	追	追
<ul style="list-style-type: none"> <li>線の強弱があり、読みにくい</li> <li>先端のとがった形状などにストレスを感じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領に準拠した字形</li> <li>ICT教育で効果を発揮</li> </ul>	教育現場に準じた字形ではない

## ○ Windows10に入っているユニバーサルフォント

- BIZ UD(UD**P**)ゴシック
- BIZ UD(UD**P**)明朝 Medium
- UD デジタル教科書体 N-R
- UD デジタル教科書体 N**P**-R
- UD デジタル教科書体 N**K**-R
- UD デジタル教科書体 N-**B**

※ 明朝体はUDフォントであっても線の強弱が強いので、使用は必要な場合のみにしたほうがよいでしょう。

【一般のフォント】

- ・フォント名に**P**がつく  
⇒プロポーショナルフォント（文字幅によって文字の詰め具合が調整される）

【教科書体】

- ・フォント名に**P**がつく  
⇒英数のみプロポーショナル
- ・フォント名に**K**がつく  
⇒かな、英数両方プロポーショナル
- ・フォント名に**B**がつく  
⇒太さが太い